T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	「生物多様性に配慮した建築」の実践に関する研究
Title(English)	Study on Practice of "Biodiversity-Friendly Architecture"
著者(和文)	林咲良
Author(English)	Sara Hayashi
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11259号, 授与年月日:2019年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:塚本 由晴,安田 幸一,奥山 信一,山崎 鯛介,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11259号, Conferred date:2019/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

（博士課程）

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第　　号		学位申請者氏名	林　咲良	
論文審査 審 査 員		氏　名	職　名	氏　名	職　名
	主査	塚本　由晴	教授	村田　涼	准教授
	審査員	安田　幸一	教授		
		奥山　信一	教授		
		山﨑　鯛介	教授		

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は、『「生物多様性に配慮した建築」の実践に関する研究』と題し、生き物と人の連関を積極的に創造する建築物や構築物、すなわち、生物多様性に配慮した建築（Biodiversity-Friendly Architecture、以下BFA）の実践例を収集すること、その設計手法と運用のあり方を明らかにすること、そのことにより人間から見た環境と生物の環境の重なりとしてその概念を構造化すること、さらに建築・環境教育への実践的応用を報告することを通して、その建築デザインとしての可能性の一端を明らかにすることを目的とするものである。本論文は、以下の６章から構成されている。

第１章「序論」では、生き物と人の連関を積極的に創造する建築物や構築物を、生物多様性に配慮した建築：BFAと呼び、研究の背景と目的、研究の対象と方法、および論文の構成と概要について述べている。また関連する既往研究の整理から本論文の独自性について述べている。

第２章「生物多様性に配慮した建築の設計手法」は、文献調査によって情報を集めることができた世界各地の99事例のBFAを、生き物の生態からみたときに欠乏する環境を補完するものとしてとらえ、生き物種別ごとに特徴を有するその形態の特徴を明らかにするとともに、その形態に統合された、生き物の生態への対応と、人との関係の調整を検討することを通して、＜生き物と人の距離を保つ＞＜モノを介した人と生き物の関係をつくる＞＜生き物と人が互いに利益を得る＞＜人が関わらなくても持続できる＞＜生き物の存在を目立たせる＞＜人の生活のなかに生き物の存在を溶け込ませる＞といったBFAの設計手法があることを明らかにしている。

第３章「生物多様性に配慮した建築を支える事物のネットワーク」では、フィールドサーベイによってその成立背景にまでさかのぼって取材することができた世界各地の40事例のBFAを支える事物のネットワークを、生き物が生存のために利用する一連の環境、すなわち生き物の生息環境と、BFA建設のきっかけとなる気づきや、建設の手助けに集まった人々、すなわちメンバーシップからとらえ、両者の関わり方をBFAや周辺環境が変化する機会ごとに検討することを通して、＜生きる知恵として生息環境と単純なメンバーシップが重ねられる＞＜生き物の生態に合うようにメンバーシップが形成される＞＜生き物の存在を軸にメンバーシップが更新される＞＜対象となる生き物をキャラクター的に扱うことでより多くの人を巻き込む＞といったBFAを支える事物のネットワークのあり方を明らかにしている。

第４章「生物多様性に配慮した建築の可能性」では、第２章で問題にしたBFAの設計手法と、第３章で問題にした事物のネットワークのあり方を総合して、BFA概念の構造を提示するとともに、それが人間を中心とした想定のもとに繰り広げられてきた建築の議論を、＜理解できない他者への想像力＞＜背後に広がる環境への配慮＞＜環境に人が関わることの責任とそれを維持するメンバーシップ＞＜地域資源としての生き物を軸にしたコモンズの構築＞＜生き物にまで拡大される民主主義＞など、より広範なテーマに接続する可能性について述べている。

第５章「生物多様性に配慮した建築を通した環境教育」では、BFAの実践可能性のひとつである建築・環境教育への応用例として、東京工業大学大学院で行われたBFAを設計し自力建設するワークショップをとりあげ、その設計、建設のプロセスと成果を記録するとともに、具体的な教育効果及び課題として～を見出している。

第６章「結論」では、第２章から第５章までの各章で得られた結果をまとめることで、BFAの存在が誘発する建築デザインの可能性を示し、BFAを建築学的に位置づけている。

以上を要するに、本論文は、生き物と人の連関を積極的に創造するための建築物や構築物を「生物多様性に配慮した建築」と定義し、その設計手法と、それを支える事物のネットワークのあり方を明らかにすることで、BFAを世界に先駆けて包括的に論じたものである。この結果は、生き物への配慮を建築デザインが取り込む実践に有効な知見を与えるだけでなく、人間を中心とした想定のもとに繰り広げられてきた建築の議論を、ポストヒューマニズムのコンテクストへ接続、展開するのに資するものであると考えられる。従って、本論文の成果は、工学上、建築学上貢献するところが大きく、博士（工学）の学位論文として十分に価値のあるものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。